

## インフォーマルミーティング報告 第3回計算科学研究部会総会

当学会計算科学研究部会の第3回総会が、第32回年会のインフォーマルミーティングとして開催された。研究部会総会では事業計画、事業報告、運営体制を審議することが内規により定められている。現在の部会員数は48名であり、11/26 17:00 に締め切られた投票により、2年の任期を終了した幹事会の再任が承認されたことが、部会長の福山淳（京大）から報告された。事業報告として研究部会メールの配信とWebサイトの運用の現状が報告され、事業計画としてそれらの継続と計算科学教育の推進が承認された。引き続き、堀内利得氏（核融合研）がHPCIコンソーシアムの活動について報告し、HPCI戦略プログラム終了後の平成28年度からポスト「京」が稼働する平成32年頃までの計算科学技術振興のあり方が検討されていることが報告された。次に石井康友氏（原子力機構）がIFERC 計算機シミュレーションセンターの現状と運用が停止される2017年以降の見通しについて報告し、堀内利得氏（核融合研）が6月に更新された核融合研のプラズマシミュレータの概要と運用状況を報告した。さらに井戸村泰宏氏（原子力機構）がポスト「京」の開発状況と米国の動向について、8月の日米ワークショップでの発表に基づいて報告した。引き続き、長友英夫氏（阪大）がレーザー・光量子分野の動向として、レーザープラズマ科学のための最先端シミュレーションに関する研究会と計算機の更新について、浜口智志氏（阪大）がプラズマ応用分野の動向として、研究トレンド、求められる計算環境、半導体のパラダイムシフト（ムーアの法則の終焉）について報告した。最後に、核融合分野における今後の計算機資源について議論が行われた。主な発表資料は <http://bpsl.nucleng.kyoto-u.ac.jp/dcsr/> に掲載されている。

（世話人：京大 福山淳）